

■■その待ち合わせ、大丈夫?■■

前回本記事でも取り上げたが、コミケットで決してなくならないのが待ち合わせの失敗トラブルだ。余程趣味嗜好が被っていない限り（あるいはいても）、いったん会場に入ったなら、それぞれ自分の目当ての場所を廻りたいので、参加者は後の待ち合わせを約束して分かれる。

しかし、それまでの時点できちんとした準備をしていないと、その待ち合わせは失敗してしまうかもしれない。数十万人の参加者の集うコミケットでは、待ち合わせにもテクニックが必要なのだ！

——■待ち合わせの成否は別れる前に決まるのです■——

友人と一緒に行く、あるいは家族などが同行する、という参加者は少なくないだろう。『ずっと一緒に行動するから、問題ないよね!』と考えているかもしれないが、意図せずに混雑に巻き込まれてしまう場合もありうる（今の今まで隣にいたハズの相手が一瞬後に全くどこに居るか分からなくなることは、残念ながらコミケットでは全く珍しくない）。

最初から別行動をするつもりでも、しないつもりであっても、同行者と再び合流するための手段は、あらかじめお互いに共有しておかなくてはならない。例えば一方だけがその方法を知っていたとしても、相手を探しだすことは非常に困難だ。『当日会場に着いてから決めればいいや』ではなく、当日会場に到着する以前の段階でやっておくべき、これも立派な参加準備なのだ。

同行予定者全員の連絡先を集めた連絡簿を作成し、事前に全員が共有する。そこに連絡先を掲載できないという人とは、一緒に参加しないという毅然とした態度も必要だ。

☐ ※連絡先とは『本名（ないし通名）・携帯電話番号・メールアドレス』を最低限含むものをいう。

例えばtwitterやLINEのIDとアカウントネームだけ、というのでは連絡先にならないので注意！

☐ 全員がカタログの注意事項を読み、コミケットのルールを理解した上で、会場の構造を知り、独力で会場内を移動できることを確認しておく。

☐ とにもかくにも待ち合わせ広場の場所は全員で共有。全ての連絡が失敗した場合には、そこで最終待ち合わせを行えるよう時間を決めておこう。

☐ そして一番大切なのは、もしその最終待ち合わせにも失敗してしまった場合は、それ以上会場内での合流にこだわらず、各自直接帰宅や、会場を離れた先で再度合流をはかることを決めておくことだ。

☐ TwitterやSkypeのメッセージ、携帯のメールは時に相手に届くまでにとんでもないタイムラグが生じることがあるし、そもそも電波状況が悪いと使い物にならない。メインの連絡手段にはしない方がよい。



●冬でも注意、日焼けの恐怖

関東地方の冬は晴れの日が多い。それは夏には及ばないものの、強い紫外線が降り注いでいるということである（大気の透明度が高い分、紫外線自体の強さは夏と大差ないという説もある）確かに冬の屋外待機では暖かい陽射しはとてめありがたいが、だからと言って無防備に直射日光を浴びていれば気づかぬうちに肌が真っ赤になってヒリヒリ……ということになりかねない（特に女性参加者には美容の大敵である）。

冬の陽射しも決して甘く見ず、顔や首、手足などに直射日光が長時間当たらないよう、防寒を兼ねた日除けグッズや日焼け止めを用意した上で、太陽のぬくもりだけを楽しもう。

